

「特別の教科 道徳」の実施に向けて〈その8〉

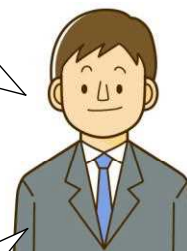
～指導方法の工夫②～

道徳の時間の課題を改善するために、「問題解決的な学習や体験的な学習を取り入れ、指導方法を工夫」することが求められています。

前号の「問題解決的な学習」に引き続き、今号では、「体験的な学習」について確認します。

「小学校及び中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」では、「道徳的行為に関する体験的な学習等を取り入れる工夫」の例として、以下のような方法が示されています。

なお、この「体験的な学習」は、従前から道徳の授業に生かすよう求められている「体験活動」（特別活動等における実践活動など）とは区別してとらえてください。



- 実際に挨拶や丁寧な言葉遣いなど具体的な道徳的行為をして、礼儀のよさや作法の難しさなどを考えたり、相手に思いやりのある言葉を掛けたり、手助けをして親切についての考えを深めたりするような道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れることが考えられる。（小学校）
- 具体的な道徳的行為の場面を想起させ追体験させて、実際に行うことの難しさとその理由を考えさせ、弱さを克服することの大切さを自覚させることが考えられる。（中学校）
- 道徳的行為の難しさについて語り合ったり、それとは逆に、生徒たちが見聞きしたすばらしい道徳的行為を出し合ったりして、考えを深めることも考えられる。（中学校）
- 読み物教材等を活用した場合には、その教材に登場する人物等の言動を即興的に演技して考える役割演技など疑似体験的な表現活動を取り入れた学習も考えられる。（小学校及び中学校）

上記のような方法を活用する場合、単に体験的行為や活動そのものを目的として行うのではなく、授業の中に適切に取り入れ、体験的行為や活動を通じて学んだ内容から道徳的価値の意義などについて考えを深めるようにすることが大切です。

単に活動を行って終わりとするのではないよう、体験を通じて学んだことを振り返り、その意義について考える学習となるようにする必要があります。



「体験的な学習」の授業の展開としては、次のような例が考えられます。

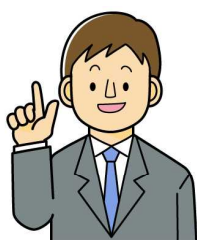
「体験的な学習」の展開例

- 主題名 「正しいことは勇気をもって」 A- (1) 善悪の判断, 自律, 自由と責任
- 教材名 「勇気をもって行動しよう」(わたしたちの道徳 小学校3・4年 P 33)
- ねらい 正しいと判断したことは、自信をもって行おうとする態度を育てる。

段階	学習活動	主な発問 ○指導上の留意点 ◆評価
導入	○ 正しいと分かっているにもかかわらず実行できない道徳的行動を想起し、理由を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・正しいと分かっているにもかかわらず実行できなかったことはありませんか。 ・正しいと思ったことがなぜできないのでしょうか。 ○ 日常の経験を想起させることで主題に対する興味・関心を高め、一人一人に問題意識をもたせるようにする。
展開	○ 道徳的価値の含まれた教材(以下の場面絵)を見て勇気のある行動について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・お年寄りに席をゆずる場面 ・いじめを注意する場面 ・あぶないことをする場面 ・寄り道を断る場面 ○ 教材と自分との関わりから勇気をもって行動することの大切さや難しさを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれどんな気持ちで行動しているのでしょうか。 ・勇気のある行動は、どれでしょうか。 ・勇気のある行動とは、どのような行動でしょうか。 ○ それぞれの行動に思いを巡らせ、その際的心情を多面的・多角的に考えさせるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分ならこのような場面でどう行動しますか。また、なぜそうするのですか。 ○ 問題との関わりから自己を見つめさせるようにする。
体験的な学習の場面	○ 実際に問題場面を設定し、道徳的行動(勇気のある行動)を体験する。	<ul style="list-style-type: none"> ・勇気のある行動を実際に行ってみましょう。 ○ 実際に体験することで、勇気をもって行動することの大切さや難しさについて考えを深められるようにする。 ◆ 勇気をもって行動することの大切さや難しさについて考えることができたか。
	○ 体験した感想を交流し、これからの生活にどう生かすか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験してみて、どのような気持ちになりましたか。 ・今日、学んだことを今後どう生かしますか。 ○ 本時のねらいについて、自分なりに発展させていこうとする思いや課題をもたせるようにする。 ◆ 正しいと判断したことは、自信をもって行おうと考えることができたか。
終末	○ 体験した感想を交流し、これからの生活にどう生かすか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験してみて、どのような気持ちになりましたか。 ・今日、学んだことを今後どう生かしますか。 ○ 本時のねらいについて、自分なりに発展させていこうとする思いや課題をもたせるようにする。 ◆ 正しいと判断したことは、自信をもって行おうと考えることができたか。

<参考> その他、「体験的な学習」として考えられる活動例 ※ () は内容項目

- ・ 幼い人や高齢者に対する親切な行為を体験する。(親切, 思いやり) 小学校1・2年
- ・ 気持ちのよい挨拶や言葉遣い、振る舞い方を体験する。(礼儀) 小学校3・4年
- ・ 相手の立場に立って「思いやり」を伝える体験をする。(親切, 思いやり) 小学校5・6年
- ・ 時と場に応じた適切な言動(挨拶や言葉遣いなど)を体験する。(礼儀) 中学校



なお、前号の「問題解決的な学習」の展開例同様、この例を「型」として固定的に捉えることのないようにしてください。道徳の授業を進めるに当たっては、道徳科の特質を踏まえるとともに、学校及び児童生徒の実態に応じて指導を工夫することが大切です。